

水の事故を防ぐポイント

1 危険な場所には近づかない



水辺には、パッと見ただけでは分からない危険が潜んでいます。特に、川は、川幅や深さ、岩の突出などによって、流れの速さや危険度が異なります。

柵や「立入禁止」などの看板がある場所には、絶対に近づかないようにしましょう。



2 こどもから目を離さない



小さな波にも足をすくわれ、沖に流されたり、溺れたりすることもあります。こどもの体に合ったライフジャケットを着用させるとともに、常にこどもから目を離さないようにしましょう。

3 急な増水などに備える



安全と思われる場所でも、上流での豪雨による急な増水などにも注意が必要です。

事前に天気予報などをチェックし、上流を含めた天候には常に気をつけましょう。

4 ライフジャケットの常時着用



水の事故で生死を分ける重要な要素となるのが、ライフジャケットの着用です。

体のサイズに合ったライフジャケットを適切に着用するとともに、着用時の保守・点検を心掛けましょう。

5 体調が悪いときは無理をしない



体調が悪いときに水に入るのは危険です。自身の体調を把握して、疲労や睡眠不足を感じる場合などは、決して無理をしないようにしましょう。

6 お酒を飲んだら泳がない



お酒（アルコール）が体内に入ると、判断力や注意力、集中力、さらには運動能力も低下します。お酒を飲んだら海や川には入らないようにしましょう。

消防本部では、水難事故が多くなるシーズンに備え、急流に対する泳ぎ方や、流されている要救助者の救助方法などの訓練を行なっています。水難救助事案が発生した際、安全かつ迅速に対応できるよう、技術の習得に励んでいます。



特集 命を守る

問 消防本部 (☎66-1119)



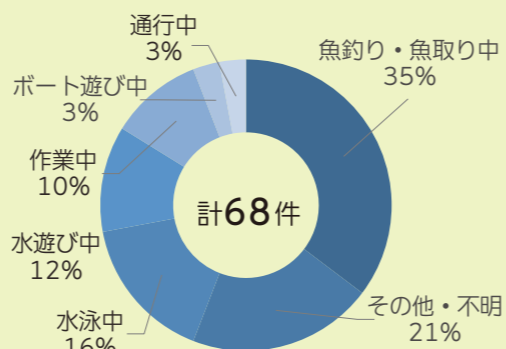
動作確認の際に行う「OK」のサイン

令和6年中の県内の水難事故は、魚釣り・魚取り中の事故をはじめ、水泳中、水遊び中に多く発生しています。

また、原因としては転落・転倒による事故が最も多い状況です。

子どもだけでなく、大人の方も思わぬ事故に遭遇する可能性があります。万全の備えで、レジャーを楽しみましょう。

令和6年 水難事故発生状況（態様別）



出典：令和7年水難事故のあらまし（岐阜県警察本部）



夏のレジャーを安全に楽しもう！
夏は川や海、キャンプなど、アウトドアが楽しめる季節です。市内にはキャンプ場も多く、県外からも多くの方が訪れます。一方、熱中症のほか、川遊び中の水難事故や、登山中の遭難など、自然には多くの危険が潜んでいます。今回の特集では、水や山での事故を防ぐポイントを紹介します。楽しい夏の思い出をつくるため、ぜひチェックしましょう。

こんなときは どうする？

川編

Q 川遊び中に、激しい雨が降り出したら

A 急いで水辺から離れる

局所的な雨で、急激に増水することがあります。特に、付知川などの上流は、下流のように水が濁らず、増水に気付きにくいので、普段は穏やかな浅い場所であっても注意が必要です。



Q 川で流されてしまったら

A 足を下流に向け、背泳ぎの姿勢を

下流側に頭が向いたまま流れてしまうと、岩などに頭をぶつけてしまう恐れがあります。川で流されてしまったときは、足を下流に向け、岩などのクッションにしましょう。



出典/河川財団「水辺の安全ハンドブック」
Illustration/山下航

Q 溺れている人を見つけたら

A 泳いで助けに行くのはNG！
必ず周りの人と協力を

まずは大声で付近の人に知らせ、119番通報しましょう。

また、浮力のあるものを溺れている人に向かって投げましょう。



山編

Q 道に迷ってしまったと思ったら

A 落ち着いて、地図で現在地を確認

地図がないときは、時刻と太陽の向きなどから推測し、来た道を戻ります。来た道が分からない場合は、むやみに動かないようにしましょう。



Q 現在地がわからないときは

A むやみに動かず、救助を呼ぶ

完全に道に迷ってしまった場合は、その場で行動を打ち切り、すぐに救助を呼びましょう。遭難の焦りから闇雲に山中をさまよい歩き、体力を消耗してしまうケースが多いです。



Q 身動きがとれないときは

A ビバークの準備をしましょう

救助を呼べない、呼んでも来ない場合はビバークの準備を。ビバークとは、自分の持っている装備だけを使い、山で一晩を過ごすことです。体力を温存する行動を取りましょう。



山の事故を防ぐポイント

1 事前の情報収集を万全に

登山など山のレジャーを安全に楽しむためには、事前の情報収集が大切です。登山する山の地形や登山道、過去の事故情報などを把握し、装備や服装、ルート選び、スケジュール作成の参考にしましょう。

また、登山中に天候が崩れると、事故の可能性が高まります。登山の予定を立てる際は、天気予報を確認し、天候不良が予測される場合は延期・中止を検討しましょう。



2 無理のない登山計画を立てる

登山者の体力や登山の経験などに見合った山やコースを選びましょう。疲れすぎないように、適宜、休憩をとることも考慮しながら、時間にゆとりをもった無理のないスケジュールを立てることが大切です。

岐阜県では、適切な山選びの参考として、「岐阜県山のグレーディング」を作成しています。県内の主要な登山ルートを、体力度と難易度で表しています。



岐阜県山のグレーディング

3 登山計画書の作成・提出

登山者の氏名や連絡先、日程やコースなどを登山計画書（登山届や入山届など）にまとめ、登山口などに設置されている「登山届ポスト」や警察署などに提出しておきましょう。

県ホームページでは、インターネットによる登山計画書の作成・提出サービスをご案内しています。ぜひご利用ください。



県ホームページ



4 下山のときこそ細心の注意を

登山において最も注意しないといけないのが下山です。下山では足腰に疲労がたまるため、転倒や滑落の危険が高まります。足元に注意をしながらゆっくり、慎重に進むことを心掛けましょう。

また、下ばかり見て進んでしまうと、登山道にある看板などを見落として間違った道に入ってしまう危険も。そのまま下山をするのではなく、元の道に引き返すようにしましょう。



県内では、令和7年、123件の山岳遭難が発生し、156人の方が遭難しており、過去10年で最も多い遭難者数です。

登山は全身を使う運動で、大量の汗、カロリーを多く消費します。疲れてくると食事が面倒に感じてしまいますが、こまめな「水分補給と食事」が大切です。

知って、備えて、安全安心な登山をお楽しみください。

☎ 中津川警察署 (☎66-0110)

県内で発生した山岳事故の状況

	令和7年	令和6年
遭難件数 (件)	123	94
遭難者数 (人)	156	102
うち死者数 (人)	16	9
うち負傷者数 (人)	58	51

出典：稜線～令和7年中の山岳遭難・山岳警備活動～(岐阜県警察本部)